

## 自然保育活動事例紹介

# みいづ保育園



園の所在地：山梨県甲州市塩山三日市場692-1



代表者氏名：日原 瑞枝



電話番号：0553-33-6842



園ホームページ：<http://www.miiduhhoikuen.com>



## 活動場所

- ・園舎隣の畑、お宮



## 活動のねらい

★自然・環境・文化などについての関心を育て、それらに対する思考力・想像力の芽生えを培う。

★自発的に目を輝かせて遊び、自ら問題解決できる子どもに育てる。

◎保育環境として、「豊かな自然環境の中で遊ぶ」時間を十分にとり、その中で子ども自身の気づきや芽生えた感情を保育士が掬いとっていくことから保育内容が展開するようにしています。



## 活動内容

### 7月「大好き!!夏の虫♪」

こくわがたをお友達がつれてきたことで、興味を持ち、観察からはじまりました。その後、散歩に行ってお探しに行くことも。



絵本へ

絵本「かぶとむしのぶんちゃん」があることに気づくと、大好きなかぶとむしの絵本ということもあり興味を示して読んでいました。



車引き

かぶとむしの角におもちゃの車の紐を引っ掛けて引っ張ってもらっています。引っ張っているかぶとむしを応援し、車が動くとき力持ちのかぶとむしの凄さを感じ驚きの顔を見せてくれました。



おすもう

せみ



かぶとむし、くわがたを出して地面の上で戦いごっこが始まりました。



お宮に行き、せみの抜け殻を見つけてきました。何のせみの抜け殻だろうとその後、本を見て調べました。ニイニイゼミでした。



中身がまだ入っているセミの幼虫を発見。飼育箱に入れて置いておくと、脱皮が始まりみんなびっくり!!貴重な経験が出来ました。



かぶとむしの歌に「角と角とで押し相撲♪」という歌詞があります。歌詞の意味が分かるよう、木の切り株に土俵を作ると早速それを使っておすもうごっこ。虫たちの姿を見ては異年齢で楽しむ姿がありました。



大きなセミの鳴き声に気づき、どこにいるのかなと探しはじめ、木の枝について鳴いているセミを発見。まだ気づかない子はどこどこ?と。大盛り上がりでした。

## 子ども達の気付きや育ち

こくわがたから始まった今年の夏の虫。次々とお家から飼育ケースに入れて持ち寄る子が増えてきて、遊びも広まってきました。大好きなかぶとむしの本を開いて見ては字を読みだす子、かぶとむしが引けるぐらいのおもちゃの車を用意しておくとは昨年度の経験を基に車引きを始める子、絵本や紙芝居にもものっていたかぶとむしの角やくわがたのアゴのお相撲を実際にやってみる子といろいろな姿を遊びの中見る事でかぶとむし、くわがたなどの虫の凄さを感じたようです。ご飯はゼリーではなく自然界では何を食べているのかを考えてあげられるよう関わり、桃など果物を見つけてあげ、ただ遊ぶだけでなく命を大切に、親しみを持って関わるようにしています。セミの脱皮も昼間はなかなか見られないのですが貴重な経験が出来ました。恵まれた環境に感謝です。

